

福島のファンを増やしたい

平成 26 年度のふくしま復興大使を務める畠山さん。63 人の大使の中から、フランス・パリに派遣された 3 人にも選ばれました。

きっかけは高校 1 年の時。「オーストラリアに留学した際、現地の人に『震災は大丈夫?』と聞かれて、うまく答えられなかったことから、『福島のことをもっと知ろう、海外の人に福島の魅力をもっと知ってほしい』と思うようになりました」と畠山さんは話します。

復興大使としての目標は、「福島のファンを増やすこと」。友人たちにフォトコンテストへの参加を呼びかけたり、SNS を活用して福島を発信したりと、復興大使としての活動に積極的に取り組んでいます。

8 月末から 9 月初旬にかけて訪問

したパリでは、現地で開かれた「東北復興祭『環』」に参加したほか、OECD の本部や日本代表部、パリ市庁舎を訪れ、震災時と現在の福島の状況などを伝えました。自主的に学んだフランス語を生かし、通訳もしました。

「復興祭には大勢の人が集まってくれて、福島へのたくさんの励ましの声や応援メッセージを頂きました。このうれしい気持ちを形にしたい」「パリで学んだことをいろいろな方法で伝えていきたい」と続けます。

「将来は情報をつなぐ仕事に就きたい」と話す畠山さん。「まずは県内の大学に進学して、もっと広い視野を身に付け福島を見つめ直したいです」と目を輝かせました。



ふくしま復興大使
畠山 せえな さん(幸野)

Profile はたけやま・せえな
1997 年 1 月 20 日生まれ。郡山高 3 年、東中出身。福島民報社主催の平成 26 年度「ふくしま復興大使」を務める。高校では合唱部に所属。9 月 7 日に開かれた NHK 全国合唱コンクールの東北ブロックコンクール、9 月 26 日に開かれた全日本合唱コンクール東北支部大会でそれぞれ金賞を受賞、両コンクールで全国大会出場を決めた(NHK 全国コンクールの模様は 10 月 11 日に生放送されます)。



お姉ちゃんの美月ちゃん、ママと一緒に笑顔で「もしもし〜」

「子どもたちには人生を楽しんでもらいたい。自分のやりたいことを見つけて、やり抜いてほしい」とパパとママは話します。

福地 深生 くん

平成 25 年 5 月生まれ
～志津
喜裕さん・寿泉さん夫婦の長男

何かおもしろいものはないかと、おうちの中をあちこち動き回る深生くん。「最近では、いろいろな場所に登るようになってきました」とママの寿泉さんが話すと、「ほっとけないよね」とお姉ちゃんのお月ちゃんもそれに続きます。

「言葉も出るようになってきました。この前は、捕まえてあげたトンボを見ながら『ボ』と言っていました」とママの寿泉さんは笑います。

ジブリ好きのパパ、喜裕さんの影響もあって、ジブリ作品はほとんど見たという深生くん。お気に入りには「となりのトトロ」と「崖の上のポニョ」。

「そのうち、『三鷹の森ジブリ美術館』に連れて行ってあげたい。キャラクターを見てどんな反応をするのか、今から楽しみです」と寿泉さんは笑顔で話しました。

※「笑顔でこんにちは」に掲載希望の人は広報担当まで申し出て下さい。

☎(02)2111

スクール トピックス



「わかった人?」ではなく「困ってる人?」と児童に問いかける大野教諭(左)。全員が理解するまでは先に進みません



「教える」のではなく「気付かせる」 猪苗代小で算数の授業研究会

(先生)「どうしたらいいのかな?」「本当に?じゃあ○○さん、やってみて」「へーなるほどねー」

普段の授業ではあまり聞かないこんなやりとりを、教室の周りにいる先生たちが興味津々の様子で見守る。

8 月 29 日、猪苗代小で算数の授業研究会が開かれました。町教育委員会が教員の指導力向上のために実施したもので、同校には町内外から約 50 人の教員が参観に訪れました。

東京の筑波大学附属小の大野桂教諭が、猪苗代小 5 年 1 組の児童に分数の授業を実施。「ブロックを組み合わせて 1 をつくろう」という課題のもと、児童が図形を使って分数を学びました。

「子どもに発見・創造させることが大切」と説く大野教諭が、分数について「教える」のではなく、児童が自ら考え、気付くよう巧みに問いかけながら授業を展開。教員たちは時折笑顔を浮かべながらその様子に学ぶ授業の進め方について研修を受けました。



誓いの言葉を述べる勇輝さん(右)。「美香のおなかには新しい命が宿っています」と発表すると、祝福の拍手が沸き起こりました

壺下の土屋さん夫婦が 田んぼで結婚式

9 月 13 日、壺下地区で結婚式が行われました。式を挙げたのは、同地区で農業を営む土屋勇輝さんと美香さん夫婦。会場はなんと田んぼの中でした。式のスタイルは人前式で、勇輝さんが誓いの言葉を述べる



列席者はほとんどが友人たち。始めから終わりまで、祝福ムードでいっぱいでした



と、結婚を認めた友人たちが「花束」ならぬ「稲束」を振り、2 人の新しい門出を祝いました。

引き続き、地区の集会所で宴会が始まり、列席者たちが愛情の込められた手作り料理に舌鼓を打ちながら歓談しました。終盤には、ウェディングケーキ入刀の代わりに餅つきをしました。

企画や準備、当日の進行などのほぼすべてを新郎新婦と友人たちで行った、手作りの結婚式。会場内は大家族のような一体感に包まれ、終始笑い声が響き渡っていました♡



土屋さんの家族が作った郷土料理やシェフの友人が腕を振った料理が好評でした

3年に一度の文化祭です
皆さん来てください

スクール
トピックス

猪苗代高校文化祭「若鷹祭」

「青春盛り坂」～一瞬の煌めきを共に～

一般公開 10/26(日) 午前10時～午後2時20分
(最終入場午後2時)

クラス展示や部活動・同好会・委員会などによる展示のほか、縁日にお化け屋敷、コスプレ喫茶など、楽しい企画が盛りだくさん。焼きそばやクレープ、チョコバナナなど、食べ物の出店もいろいろあります。

学校公開

11月12日(水)・13日(木)・14日(金)
午前8時50分～午後3時10分
(この間いつでもご来校ください)

※駐車場は、前庭の駐車場をご利用ください。
※正面玄関からお入りいただき、事務室で受付を済ませてからご覧ください。
※ご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

猪苗代高校 教務部 ☎(62)3125



学校公開もあります
普段の学校生活も
のぞいてみてください



黄金色に輝く稲穂に囲まれ、笑顔を見せる功さん(左)と美千代さん

神田功さん・美千代さん 県の「農業十傑」に

名古屋町の神田功さん、美千代さん夫婦は9月9日、第55回県農業賞を受賞しました。この賞は、「農業十傑」として県の農業分野で最も権威のある賞で、今回の受賞は、環境に配慮した水稻の栽培などが高く評価されたものです。同賞の受賞は町内では11組目、平成17年以来9年ぶりとなります。農業と民宿を経営する神田さんは、平成22年にエコファーマーの認定を受け、環境に優しい農業を実践。

平成25年からは水稻の育苗箱に肥料を入れる「苗箱まかせ」を導入し、肥料の利用率向上を向上させるとともに、ほ場外への肥料の流出を低減させています。農業の振興にも積極的に取り組み、近隣の農家とともに「いなわしろみりのり会」を組織し、加工会社へ出荷するなどしています。神田さん夫婦は9月9日、福島市の杉妻会館で行われた表彰式に出席後、町役場を訪れ、前後公町長に受賞を報告しました。功さんは「今まで支えてくれた家族や地域の人たちに感謝したい。今後も地域の農業の振興に貢献していきたい」と話しました。

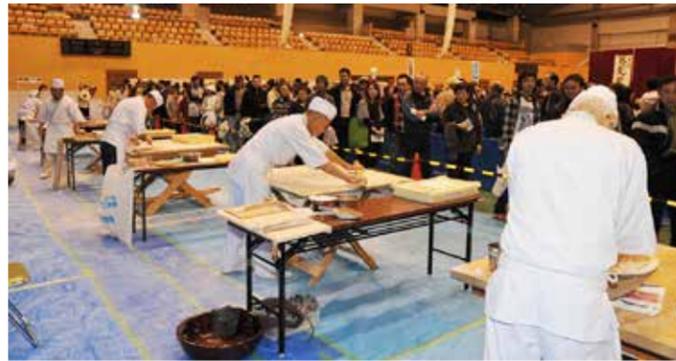


表彰式当日、前後町長に受賞を報告した神田さん夫婦

サークル紹介 Circle introduction

猪苗代 手打ちそばの会

(佐藤 善司会長)



新そば祭りでの実演の様子。私たちと一緒に、祭りを盛り上げませんか

秋の新そば祭りに 参加しませんか

本会は会員相互の親睦およびそばに関する知識を深めるとともに、そば打ち技術の向上を図り、手打ちそばの普及を目的に活動しています。

大きなイベントとして、毎年11月の猪苗代新そば祭りがあります。一緒に活動する方を募集しています。

会員とそば打ちに興味のある方を対象に、毎月第2・第4土曜日そば打ち講習会を開催しております。ぜひご参加ください。お待ちしております。

【講習会】

▼日時 毎月第2・第4土曜日
※変更になる場合もありますので、事前にご確認ください。

▼場所 学びいな 調理室

▼持参物 前掛け、そば入れ容器(道具一式は準備してあります)、材料代1500円

※打ったそばはお持ち帰りください。

▼申し込み・問い合わせ先

会長 佐藤善司 ☎(66)3318

※このコーナーでは、活動をPRしたい団体を募集します。希望する団体は広報担当まで問い合わせてください。

☎(62)2111

スクール
トピックス



元気いっぱい運動会

猪苗代、中の沢保育所



中の沢保育所の園児たちの、気合の入った白虎隊演舞



猪苗代保育所のかっこ。ゴールを目指して一目散

猪苗代保育所と中の沢保育所の運動会は9月13日、青空の下、子どもたちの元気いっぱいの行進で始まりました。

綱引き、紅白の玉入れ、リレー、白虎隊の演舞など、園児たちは、練習の成果を一生懸命に披露し、園庭には、応援の歓声が響きわたりました。

渾身の力を込めて引いた綱引き、一つでも多くかごに玉を入れようと頑張った紅白の玉入れ、緊張した面持ちで白虎隊を舞う、りりしい園児たち。保護者は、子どもたちの成長に感動し、涙ぐみながらも、一生懸命にカメラを回し続けていました。きっと、カメラだけではなく、保護者の皆さんのまぶたの裏にも、焼きついたことでしょう。

また、青空の下、家族で囲むお弁当は格別で、口いっぱいのおぼり、お弁当を食べる園児たちの笑顔は、保護者への最高のプレゼントになりました。